

報道関係者各位

株式会社BCN
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-12-5 内山ビル
TEL:03-3254-7801 FAX:03-3254-7808 <http://bcnranking.jp/>

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします。
BCNアナリスト 道越 一郎
michikoshi@bcn.co.jp

4Kテレビの販売、50型以上で金額構成比6割目前に ——「小型化」の進展で普及に勢い

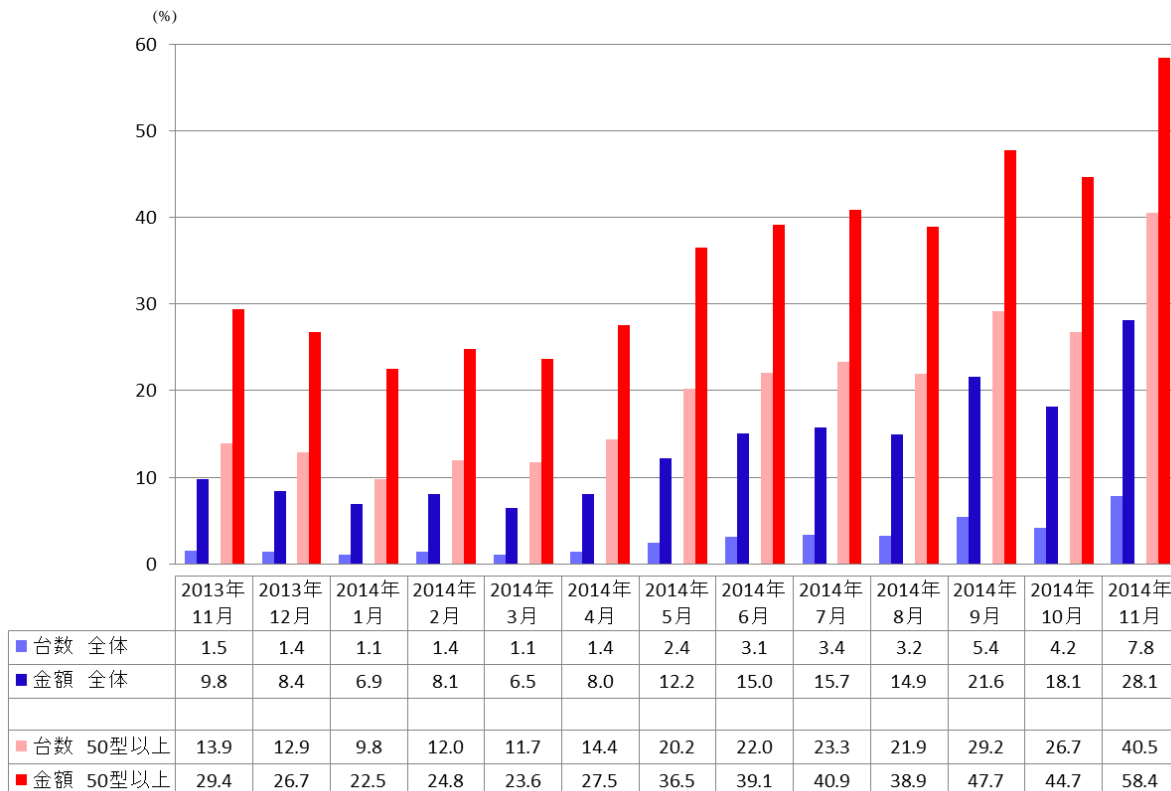
4Kテレビの販売に勢いがつき始めた。50型以上の大型液晶テレビに占める4Kテレビの割合が11月、台数で4割超、金額で6割弱と、9月に記録したこれまでの最大値をいずれも大きく上回った。このサイズ帯では最も小さい50型の構成比が高まっているため、それに伴い平均単価が下がってきたからだ。さらに4Kテレビ全体でも「小型化」が進展。販売台数はこの1年間で5.18倍にも膨らみ、4Kテレビはいよいよ普及期に突入した。全国の主要家電量販店などの実売データを集計する「BCNランキング」で明らかになった。

■4Kモデル構成比、過去最高から10ポイント以上も一気に拡大

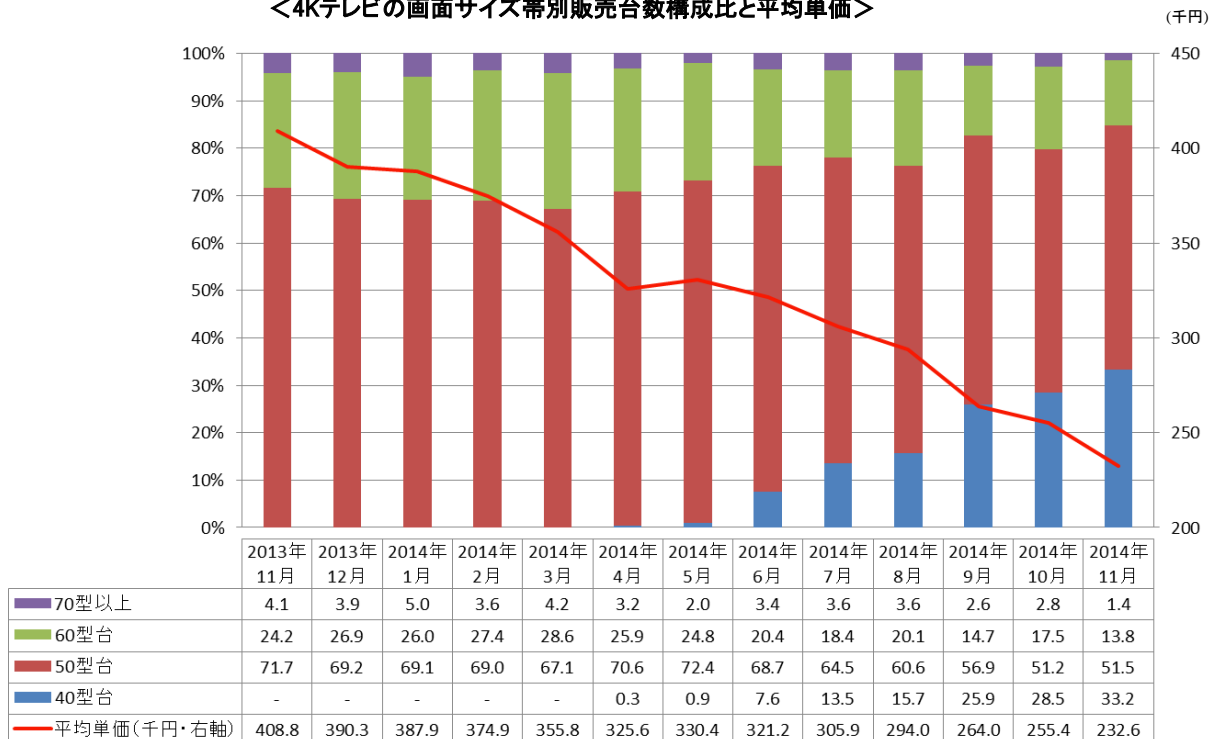
液晶テレビ全体に占める、4Kモデルの販売台数構成比は、これまで、9月の5.4%が最高だったが、この11月に7.8%と、いよいよ1割に近づいてきた。販売金額では28.1%と3割の水準まで拡大。ここにきて存在感がますます大きくなっている。さらに50型以上の大型テレビに絞って、4Kモデルの販売構成比を見ると、台数で40.5%と4割を突破、金額で58.4%と、6割目前の水準まで売り上げが伸びてきた。これまではやはり9月が過去最大で、台数29.2%、金額47.7%だったが、それぞれ10ポイント以上も構成比を伸ばした。これをけん引したのが50型の製品。大型モデルの中では、最も小さく単価も安いからだ。50型以上の4Kテレビに占める50型の販売台数構成比は、この11月に28.6%を記録。これまで最多だった55型を初めて抜いた。

4Kテレビ全体でも、現在「小型化」が進んでいる。今年に入りメーカー各社がこぞってより小さな製品を投入したことで、価格が下がり、市場が活性化してきた。3月までは4Kテレビの最小サイズは55型で、販売台数構成比も最大だった。しかし4月以降、50型や49型、40型など、単価の安い小ぶりの製品が相次いで登場。売れ筋が、より小型のモデルにシフトしつつある。平均画面サイズもこの1年間で58.0から52.5に縮小。今年登場した40型台の製品も着々と販売を伸ばしており、4Kテレビ全体の33.22%を占めるまでに拡大した。これに伴い4kテレビの平均単価も、昨年11月には40万8800円から、この11月には23万2600円と、1年で43%下落した。一方、大型の4Kモデルの構成比は縮小に向かっている。この3月までは、ほぼ3割を維持していた60型以上の大型モデルは2割を切った。

＜液晶テレビに占める4Kモデルの販売台数・金額構成比 全体／50型以上＞



＜4Kテレビの画面サイズ帯別販売台数構成比と平均単価＞

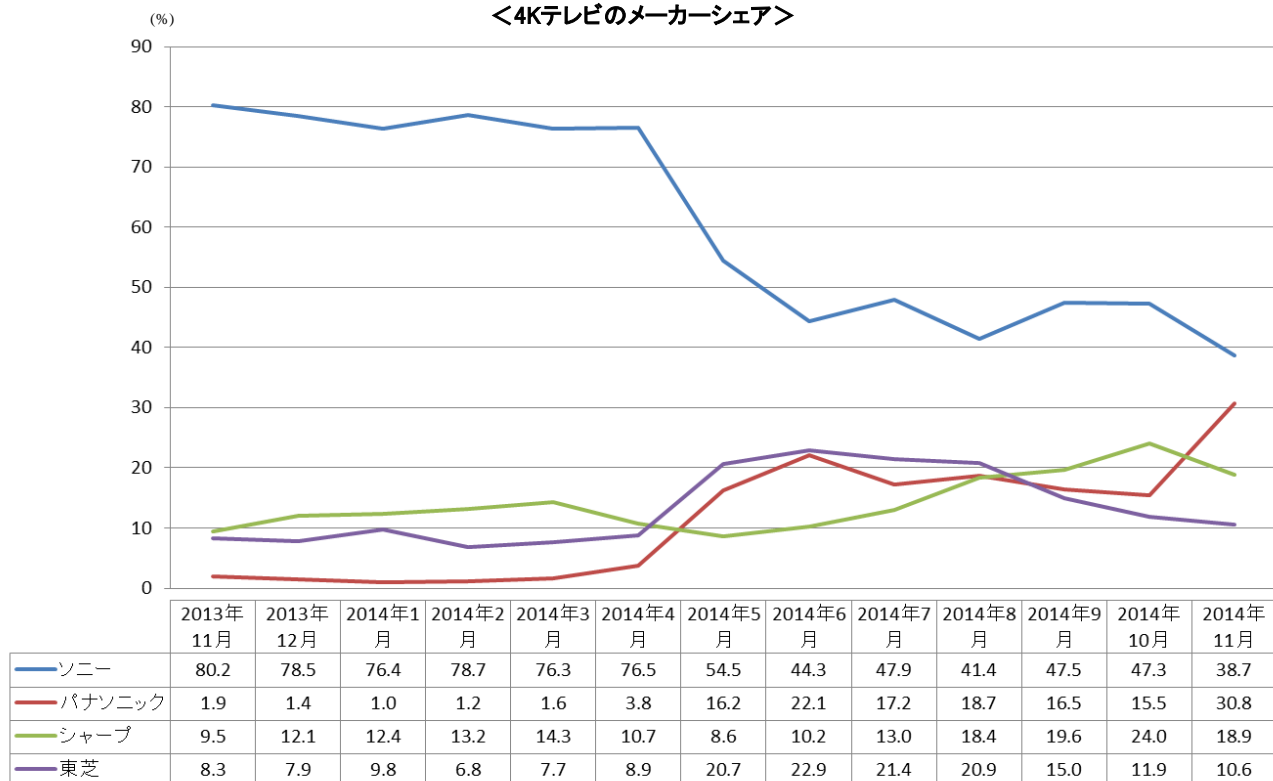


■シェア争い激化の中、4Kのプレミアムをどこまで維持できるか

「小型化」の進展はメーカーシェアにも影響している。4Kテレビとしては小さめの55型で当初は大きなシェアを握ったソニーだったが、競合各社が40-50型台で比較的小ぶりのモデルを相次いで投入し始めたことで状況が一変。11月時点でもトップは依然ソニーだが以前のような圧倒的なシェアではなくなった。逆に、勢いづいているのがパナソニックだ。同社は小型のラインアップのリリースが遅かったために出遅れていたが、秋冬の新製品として投入した40型のモデルが、平均単価15万円台の低価格を武器に一気に売り上げを伸ばし、11月には3割超のシェアを獲得。2位に急浮上した。同社の4Kテレビは、11月の平均単価で21万円台と上位4社中最も安く、4Kテレビの平均インチサイズでも50.6と上位4社中最も小さい。9月、10月と一時2位につけていたシャープは11月に3位に後退。40型の平均単価でわずかながらパナソニックを上回っていることも逆転を許した一因だろう。価格競争も激しくなってきた。

11月現在で、液晶テレビ全体の平均単価は6万4500円、4Kテレビは23万2600円。4Kテレビには今のところ、およそ3.6倍の価格プレミアムがある。しかし、単なる価格競争に陥ってしまえば、このプレミアムはどんどん消え、再び収益の悪化を招きかねない。このプレミアムをできるだけ維持しながら市場を拡大せたいメーカー各社にとっては、今後、4Kにプラスアルファの商品力が求められることになりそうだ。

＜4Kテレビのメーカーシェア＞



BCNでは全国の量販店22社(アベルネット、アマゾンジャパン、エディオン、NTTレゾナント、ケーズホールディングス、サンキュー、上新電機、スタート、ストリーム、ソフマップ、ZOA、ドスパラ、ナニワ商会、ビックカメラ、ピーシーデポコーポレーション、ベスト電器、三星カメラ、ムラウチドットコム、MOA、ユニットコム、ラオックス、楽天ブックス=50音順・2014年11月1日現在)のPOSデータを日次で集計したBCNランキングを公表しています。

* 集計対象の社数は、当社と販売店との間でデータ提供契約を締結している法人数をカウントしています。